

# 1 年 団

学年主任： 山下 恵二

## (1) 今年度の目標

- ①高校生としての自覚と責任を持ち、基本的な生活習慣を確立する。
  - ・自律的な生活を心がけ、社会的なマナーを身につけ、良識ある高校生であることを目指す。
- ②授業を中心に据えた自主的学習習慣をつける。
  - ・家庭学習時間（最低3時間）を確保し、計画性のある学習ができるようにする。
- ③目標を高く持ち、充実感と達成感の得られる高校生活にする。
  - ・学級活動、部活動、学校行事、生徒会活動等に積極的に参加し、協調性や社会性を養う。

## (2) 主な取り組みの計画

- ①学校ベースの生活習慣、学習習慣を確立させる。
  - ・入学当初のオリエンテーションで、丸亀高校の歴史、望まれる生徒象、教育課程、校則などを伝える。
  - ・集会、ホームルームなどの時間に、集団の中の自分を自覚させ、団体行動における責任ある行動・マナーを習慣化させる。
  - ・面接で、生活時間調査等で自分の生活を振り返らせ、目標を高く持ち、時間を有効に使わせる工夫・意識を持たせる。
- ②講演会や大学訪問を通して、自分の将来像を考えさせる。
  - ・総合学習の時間の各講演会や、職業研究・学部学科調べ等を充実させ、進路意識を明確にさせる。
  - ・大学のオープンキャンパスや大学訪問を通して、実際に大学生活を経験させる。
- ③様々なことに興味を持たせ、積極的に学校行事や部活動に参加させる。
  - ・部活動に積極的に参加させ、身体を鍛えるとともに、仲間との連帯意識を育てる。
  - ・運動会や津島杯、斯文祭などを通して、クラスの一体感を盛り上げさせる。

## (3) 成 果

- 高校生としての自覚・生活習慣・学習習慣に関して
- ・家庭学習時間は11月調査で1日平均3.4時間の確保ができています。
  - ・集会時の集かが初めは遅かったが、学年後半になると多少早くなってきた。
  - ・学年当初からシステム手帳を全員に持たせて、使い方の指導をクラスや学年全体で行った。生活や学習を計画的に行わせ、またそれを振り返らせるのに効果的であった。忘れ物の防止にも有効であった。
  - ・6月後半から7月にかけての中学校訪問について、担任がクラスの生徒を指導する時間を少しでも確保するため、担任の訪問回数は1回とした。
- 目標や将来像を持たせることに関して
- ・東大・京大のキャンパスツアーや阪大研究室体験に積極的に参加するなど、高い目標を持つ生徒が多い。（東大56人(前年度12人)、京大19人(同19人)、阪大9人(同25人)。ただし今年度は3大学が同日開催であったため、単純比較は不適當。）
  - ・総合学習の職業研究講演会を7講座1時間に精選し、受講後の情報交換をクラス内で丁寧に行うことで、参加した講演会以外の内容や、その職業について知ることができ、総合学習を充実させることができた。
  - ・大学訪問を香川大学（経・法・教・工・農）と徳島大学（医（医・看）・歯・薬）とし、生徒の志望を尊重させながら、大学生活を体験させることができた。
  - ・教科面談カードを教室内に設置して、教科面談を促したり、生徒が面談を希望しやすくしたりするようにした。ただし利用状況は低調である。

- ・難関大セミナーを開催し、難関大学及び難易度の高い学部学科を志望する生徒を対象に、難関大学の特長に関するレクチャー、数学の授業、国数英の勉強法に関する講座を実施した。(2月28日実施予定。)

○様々なことに興味を持たせ、充実感と達成感を得させることに関して

- ・運動会で4組が準優勝し、1年生でもやればできるという雰囲気を作ってくれた。
- ・部活動加入率は87.5%と例年並みであり、多くの生徒が文武両道に取り組んでいる。
- ・行政や地域の協力を得て実施した防災訓練では、積極的でさわやかな態度で取り組むことができ、地域の方々にも高く評価された。

(4) 課題と次年度以降の改善策

○1年団の指導に関して

- ・職業研究講演会の講師・内容は毎年検討して依頼するのがよいと考える。
- ・大学訪問は日程調節等が大変だが、生徒にとって大変有意義な体験であり、ぜひ継続していくべきだと考える。
- ・教科面談はまだ十分機能しておらず、学習に悩みを抱える生徒のためにも、面談カードを活用するなどして積極的に進めていくのがよいと考える。
- ・校内の施設や設備(PCなど)の利用方法をあまり知らない生徒が少なからずおり、オリエンテーションその他の機会に指導していくことが必要であると考えます。

○現1年団の2年次での指導に関して

- ・何に対しても積極的に取り組もうとする雰囲気が学年全体にあるので、与える指導から、自ら考え、行動するように促す指導へと推移させていきたい。2年次における修学旅行は、その好機と位置づけられる。
- ・家庭学習時間がある程度確保できており、成績にも伸長が見られるが、2年次での悪い中だるみが起こらないよう、まずは1年次から2年次への移行期の指導、そして2年次のスタート時期の指導に気をつけたい。
- ・難関大セミナー等を活用して、クラスや学年で、高い志望を持つ成績上位層の生徒集団を育成し、学習面の核としてクラスや学年を牽引するようにさせたい。